

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年2月5日 NO.84



谷保天神のウメ

花ちゃん 「うわあー！梅（ウメ）の花ですね。もう咲（さ）きはじめたんですね。」

モンタ博士「これはね、谷保天神の梅林（ばいりん）のウメの花なんだよ。」

オー君 「谷保天神なら、おいらのおうちの近くだ。よくお散歩に行くよ。」

花ちゃん 「梅の花って、すてきですね。春を知らせてくれる花ですね。」

オー君 「おいら、梅の花のかおりが大好きだな。とってもいいにおいなんだ。」

モンタ博士「ところで、谷保天神にはどうして梅のお花がいっぱいあるか、二人とも知っているかな。」

花ちゃん 「え！何か理由でもあるのですか。」

オー君 「おいらも知らないなあー。」

モンタ博士「ぎょ！知らないのかあ。第七小学校は、谷保天神が近くにあるだろう。それじゃ、知らなくちゃなあ。ところで、この和歌（わか）を知っているかな。」

『東風（こち）吹（ふ）かば 白（にお）いおこせよ 梅の花

主（あるじ）なしとて 春を忘（わす）るな』

オー君 「おいら、初めて聞いたな。」

花ちゃん 「どういう意味（いみ）なんですか。」

モンタ博士「まだまだ小学生だから、二人ともわからないのは当然（とうぜん）かもしれないね。まあいいや。この歌の意味はね・・・

『春風が吹いたらよいにおいを太宰府（だざいふ）に送っておくれ、  
主人の私がいなくても春をわすれてはいけないよ』

という意味なんだよ。」

花ちゃん 「太宰府（だざいふ）って、なんですか。」

オー君 「だれが作った歌なんですか。」

モンタ博士「そうか、菅原道真（すがわらみちざね）については、何も知らないんだ。」

オー君 「菅原道真？初めて聞く名前だな。どんな人なんですか。」

モンタ博士「菅原道真という人はね、平安時代（へいあんじだい）の人なんだ。」

オー君 「平安時代というと、そうとう昔ですね。」

モンタ博士「西暦845年に生まれ、903年になくなっているんだ。」

花ちゃん 「どんな人だったんですか。」

モンタ博士「貴族（きぞく）のおうちに生まれて、小さいころからとてもよくお勉強して、  
ものすごく頭がよい人だったんだ。」

オー君 「よくお勉強して頭がいいのは、おいらと同じだな。」

花ちゃん 「オー君！静かに！ モンタ博士、その続きは・・・。」

モンタ博士「お役人（やくにん）になり、その後えらくなり、高い地位（ちい）についた  
んだけど、左遷（させん：ひくい地位にさせられること）されて、九州の太  
宰府まで探されてしまった、悲劇（ひげき）の政治家（せいじか）だね。」

花ちゃん 「へえー。そうなんですか。もっとくわしく知りたくなりました。」

オー君 「おいら会いたいな！ そうだ。タイムマシンで七小まで遊びにきてもらおう。」

モンタ博士「なるほそ。それは、いいアイデアだ。大きな声でよびかけてみよう！」

花ちゃんオー君「菅原道真さーん。国立第七小学校まで遊びに来てくださーい。」

すると・・・次号につづく！